

### 第3回 ポートアイランドスポーツセンター再整備検討有識者会議（議事録）

日時：令和3年11月5日（金曜）10時00分～11時30分

場所：神戸市役所1号館14階AV1会議室

（委員）

- ・スポーツ施設のメイン施設はバリアフリーであるが、プールやスケートリンクにアクセスするまでのプロセスが大変である場合が多い。チケットを購入して施設に行くまでのドライゾーンとウェットゾーンを明確にしておく必要がある。動線を勘案して人の流れをつくっていくということを調整事項の中に加えてほしい。

（会長）

- ・しあわせの村のローンボウルズ場は、ワールドマスターズゲームズに向けて昨年の秋に天然芝から人工芝への張り替えが行われた。メインとサブフィールドがあるが、その間にしっかりと動線が設けられている。この競技は、一般の方と車椅子の方が一緒に試合をしたり、男女が一緒に試合をしたりするが、車椅子でもグリーンに自然に入れるようにされている。

（委員）

- ・水泳に関しては色々なイベントが各地で行われている。水泳の日は、日本水泳連盟が各都道府県を順番に回っており、その後、イベントが行われたプールで引き続いて独自に開催していくものである。
- ・東京オリンピックが終了したが、合宿で利用されたところ、神戸ではニュージーランドが合宿を予定していたが、その国の大使館と連携をしたイベントを大会のレガシーとして開催するところが多い。
- ・また、施設利用にあたって採算性、利用者数をしっかりと増やしていくということと言うと、神戸市も同様であるが、国のスポーツ推進計画では週に1回以上運動する人の割合を65%以上、障害者は40%以上を目標にしており、それに対してどこまで貢献できるかという視点で様々なプログラムが考えられる。利用しやすい、提案しやすいという意味で言うと、まずは年間の利用計画を把握できる仕組み、優先順位が必要。例えば、大会は前年の何月までに予定を入れて、団体利用はその後に抽選を行い、残りの枠で一般利用でどのようなことができるかというのが出てくる。
- ・最近の一般利用も、自ら運動をする方は地域のフィットネスクラブなどに行く場合が多いが、ポートアイランドスポーツセンターのような施設になると、イベントを開催するなどの仕掛けをして、集客をすることで利用が高まり、スポーツ実施率の目標に近づくのではないかと思う。学校単位で動く場合もあると思う。

- ・ パラスポーツに関しては、基本はインクルーシブにすること。神戸市が先んじて実施していることであるが、ある県のプールでは市民選手権の中に障害の部も入れている。こういったことが普及しつつある。
- ・ 冬の競技ではアイスレジャホッケーがあるが、これは競技者が全国でも少ない。
- ・ このようなことに取り組んでいくのであれば、民間事業者の提案は非常にユニークなものがあり、指定管理者の指定を受ける際の要素の一つにもなっているので、民間のアイデアを借りるのは良いことと思う。

(委員)

- ・ ポートアイランドには、ウォーキング・ランニングロードが設定されている。これは港島自治連合協議会と神戸市でつくったものであるが、今はそのルートにポートアイランドスポーツセンターが入っていない。新しい施設ができるのと同時に、ポートアイランドスポーツセンターもルートに入れると施設の認知度も高まるので、ぜひやってみたいと思う。

(委員)

- ・ 子供は大会会場として施設を使うことが多い。通年での利用者の拡大という観点で言えば、現在、小学生向けの水泳教室を学校プールで開催している。これは泳力が10m未満の子供を対象に、体育の授業以外に学校の先生が指導するというもので、今年と昨年はコロナの影響で開催できていないが、令和元年度は4日間で100名以上の参加があった。このような取り組みをポートアイランドスポーツセンターで開催できないか。今は夏休み前の7月末に開催しているが、水泳の授業が始まる前の5月に、専門性を有する指導員の方に教えていただいたり、有名な選手の模範的な泳ぎを見せてもらったりすることで、かなり刺激を受けると思う。子供たちに本物を見せるということは、非常に大切である。小学生向けの水泳教室や、中学生以上でも競技者を目指す子供の意欲向上につながると思うので、ご検討いただきたい。
- ・ 令和5年度から段階的に地域部活動に移行していくという国の方針が明確に示されているが、土日の指導員をどう確保するのか、大会参加資格として全国大会などは教員が引率することが原則となっていることや、事故発生時の保険などの課題があり、国の方で議論が進みはじめている。
- ・ 少子化の中においては、各学校単体で部活動を維持・存続していくことが難しいという現状もある。そこで、部活動を地域ごとに再編し、ポートアイランドスポーツセンターを拠点に指導員がついて子供たちを指導していく。このような水泳の拠点としてこのプールを活用できないかと思う。学校のプールであれば冬場は泳げないが、ポートアイランドスポーツセンターであれば、通年で泳ぐこともできる。教育委員会としては、地域部活動への移行を本格的に進めていくところであり、教員の働き方改革を踏まえた部活

動改革という観点からも、施設を利用させていただくことを考えたい。

(委員)

- ・ サラリーマン、ファミリーの利用者目線でご意見をさせていただく。市民プール、民間レジャープール、スイミングクラブ、スポーツクラブがある中で、利用者目線で考えたときに、市民プールの役割が何かということを考える必要がある。市民プールの役割は第一に安心して使えることだと思う。東灘区在住で5歳の子供がいる部下の話であるが、芦屋市の朝日ヶ丘プールに行かれたという話があった。なぜそこに行っているのかを聞くと、レジャーで使う際の一番のポイントは浮き輪が使えることのようなのだが、屋外50mプールのコースロープを全て外して水場として使えるようにしている。浮き輪が使えない施設もあり、そのような施設は家族連れ、レジャーには向いていない。逆に本気で泳ぎたい方は、浮き輪が使えないプールというように、利用者の棲み分けをしているように思う。神戸にはデカパトスがあるが、混みすぎていることと、ヤング層が多く5歳以下の子供を連れて行くには心配という意見があった。
- ・ プールの深さであるが、芦屋市の朝日ヶ丘プールは水深が1.2mほどで、小さい子供は浮き輪が必須であるが、泳いだり、水中ウォーキングをしたり、レジャー利用したりと応用がきくのではないかと思う。
- ・ 家族利用以外に、サラリーマンなどが健康増進目的でプールを使う場合で言うと、水中ウォーキングと思う。企業が健康増進で何を推進するかと言うと、一番はお金のかからない、どこでもできるウォーキングである。当社はホワイト500（健康経営優良法人）に入っているが、目指している姿勢はボトムアップで、自分で健康になりなさいということで、それが広く求められるので、手っ取り早いのがウォーキングである。膝や腰の負担などで、ウォーキングができない人は水中ウォーキングを行うのではないか。
- ・ 水中ウォーキングやレジャー利用で、可動床を上手く使ったり、プールを分割したり、水深を工夫しながら両立ができる施設になれば良い。

(会長)

- ・ プールのコース分けについてご意見はないか。

(委員)

- ・ 水中ウォーキング利用の場合は、50mはしんどいと思うので25mで折り返しができる方が良い。もう一つ、ウォーキングのペースも人によって違うので、折り返しのところで休憩できるパターンが良い。
- ・ 競技者用は水深2m以上となっているが、それは大会に限った話か。練習のときは水深1.2mぐらいでも良いのか。

(委員)

- ・水深は飛込の練習をするかどうかで決まる。日本水泳連盟の基準では1.35m以上の水深がないと飛込をしてはいけないとされている。安全圏は2mである。

(会長)

- ・しあわせの村のプールは真ん中にコースロープが引いてあり、両サイドの一方はコースロープを引かずに障害者の水泳教室を開催し、もう一方は車椅子でも入れるようになっていて、子供が自由に泳げるようになっている。

(委員)

- ・ホテルにも15mほどの小さなプールと宿泊者が使える屋外プールがある。屋外プールはレジャー用なので、運動ではなく、子供と一緒に使う方が多い。夜にはナイトプールで若い方も来られる。ポートアイランドスポーツセンターについては、大会利用や、一般でも健康増進といった利用があるかと思う。
- ・大きな大会がなければ、ホテルの利用はない。基本的には全国、近畿圏以外から集まる大会であれば利用の機会がある。宿泊者でプールがあるから行ってみようという方はほぼない。よく利用されるのは近隣の方であり、利用者層は考えていかないといけない。
- ・ポートアイランドはウォーキング・ジョギングコースが充実しており、ポートアイランドに勤める企業の方、ご近所の方もよく歩いている。それと同じようにプールもご利用いただけるようになれば良いと思う。

(委員)

- ・大会をたくさん誘致して憧れの場所になるような施設にしていきたい。そして、その憧れの施設をだれもが自由に使える環境にしていきたい。国際大会を開催するようなところで、浮き輪を使って泳げるというのは魅力的ではないか。
- ・泳ぐだけであれば、家の近くにあるプールを使われる方が多いと思うので、ここまで来るにはそれなりの理由が必要である。憧れということと、そこを自由に使える、障害者の方も快く受け入れてくれる施設ができれば良い。ユニバー記念競技場も障害者の方がここで走るのを楽しみにしてイベントに来られる。しあわせの村運動広場の陸上トラックは、国立競技場と同じ仕様に改修され、障害者も含めて利用が増えている。
- ・パラカヌーという競技があり、神戸にはほとんど競技者がいないが、施設で体験企画ができれば選手の掘り起こしができる。アイスレジャホッケーは5年ほど前に体験教室を開催したが、お願いをしなければ開催できないものであり、施設側に競技を理解していただいて受け入れてほしい。

(会長)

- ・2011年にスポーツ基本法が策定された。従前との違いとして、障害者とプロアスリートがスポーツ基本法に含まれており、同様に扱って振興していくこととされている。特別にお願いしなければならないということではなく、当初からの方針としていただきたいと思う。

(委員)

- ・最近のプールでは、短辺方向に25mで使う施設が多くなってきていると思う。稼働壁については、故障のことや使い勝手の面もあるので、設備面から検討された方が良いと思う。

(委員)

- ・公共スポーツ施設は一般的に第一次の誘致距離が1.5kmと言われている。その次が3kmであり、そこにどのようにして人が来るか。フィットネスクラブをつくる時は、その地域の流動人口を含めた人口数を必ず見るが、公共スポーツ施設の場合は誘致距離を長く取る必要があり、そのためにイベントを開催することは重要だと思う。もう一つ重要なことは、他の委員の意見でもあったブランディングである。
- ・世界のトップレベルが来るようなブランディングをしていくことが、PFIで実施する場合には提案の一つになってくると思うが、民間の発想を持って一緒にブランディングをつくっていくことが重要になってくる。ただし、公共スポーツ施設の場合はその点だけ突出していてもだめで、神戸市が今まで歩んできたインクルージョンの方向性を理解しながら、ブランディングをつくっていくということが大切であると思う。施設は育てていくものだとお伝えしてきたが、ブランディングをつくっていくという方略を持つことも重要である。
- ・ここで議論されていることは、日本型のスポーツ施設経営で、富士山のように裾野を広くしてやっていこうという発想が多い。日本のスポーツは運動部活動を中心に皆がアクセスできることを考えて発展してきた経緯があるが、例えば水球だけを強化していこうという地域もあった。競技人口が少なく、タワー型の構造をしており、障害者スポーツもそれに似ている。突出力というのがブランディングにつながったりもする。そういった発想を取り入れながら検討していくのが良いのではないか。

(委員)

- ・スピードスケートの大会で集客力を高めるには、今の施設では全日本選抜や西日本大会までしか開催できず、オリンピック選考会や国際大会は開催できる条件を満たしていないので、新しい施設はこれらを誘致したいという思いはある。神戸は場所としては人気があるが、今は競技の安全性も求められ、これらの大会を開催できるのは名古屋、大

阪、長野県の野辺山ぐらいしかない。

- ・神戸はアクセスなどの条件面ではとても良いという評判を受けている。新しい施設には、会議室や更衣室、トレーニングルームも大会誘致を踏まえて入れていただきたいと思う。

(委員)

- ・フィギュアの大会は国際大会や全日本選手権はキャパが小さいので難しいというのが現状であるが、それ以外の大会に関しては、神戸はホテルも近くにあり選手・審判員には評判が良く、拠点として使っていけるのではないかと思う。
- ・練習場所としても貴重な施設であり、サブリンクがあることも大きい。選手強化の部分では、ソフトだけでは難しく、スケートリンクの開設が早いほど、環境としては良くなると思う。
- ・集客に関しては、オリンピックシーズンは利用客が増えると聞いている。ウインターフェスティバルなど興味を引くイベントを今も開催しており、こういったところでも連携して何か良いものができれば集客につながると思う。
- ・インクルーシブに関して、フィギュアスケートは肢体不自由の方には競技特性やルール上難しく、やっている方をほとんど見たことがない。知的障害に関しては、スペシャルオリンピックでフィギュアの大会があるし、一般の大会にそういった方が出場されている実績もある。熱心に指導されているコーチもいる。
- ・憧れの施設という話があったが、そのような施設になると良いと思う。

(委員)

- ・アイスホッケーは同じリンクを使うが、他の競技と使い方が異なる。身近な施設では、尼崎のスケートリンクが、リンクだけのことを考えると一番条件が良い。
- ・大会を開催する上では、控室など競技に関する設備を設けないと、全国大会や国際大会を誘致するのは難しいと思う。
- ・東京大会でもパラスポーツが話題になったが、アイスレッジホッケーという競技は両手にスティックをもって、スティックの柄にカギがついており、それを使って進むという競技である。この競技で問題になるのが、ソリに乗ったままフェンスのドアを開けてベンチに入らないといけないので、氷の面と地面の段差をなくさないといけないことである。アイスホッケーは1分程度で選手の入替わりがあるほど、体力の消耗が激しいスポーツであり、絶えず選手の入替わりがある。通年のスケートリンクであれば可能であるが、プールと併用する施設では床を上げないといけないようで、出入口に20cmほどの段差が生じてしまう。アイスレッジホッケーを誘致する施設にするのであれば、そのあたりをどのように解決できるのか技術的に検討していただきたい。ベンチのところに氷をつくる必要があるが、短辺方向には3mほど、長辺方向には10mほどの長さがあれば

ばよい。

- ・アイスホッケーの大会で集客力を高める方法について、1981年2月に現施設のこけら落としとして全日本対ソ連の試合を開催し、2,500人以上の集客があった。日本アイスホッケー連盟が3年ほど継続して主催していたが、当時は関西で開催できる会場は神戸しかなかった。
- ・今はアジアリーグアイスホッケーが主であるが、新聞にも結果が乗らないような扱いである。関東の大学リーグはすごく人気があり、2,000円ぐらいの入場料をとっている。東京都の連盟が主催しており、集客・収益もあがっている。関西も大学リーグがあり、尼崎で数試合開催している。こちらは無料であるが、人気はあり、観客も集まっている。どのぐらいのチームを呼べるか、関西の学生リーグにも力を入れる必要があると思うので、私も頑張ってみりたい。
- ・以前は、日光アイスバックスが神戸をサブフランチャイズにしていた。アジアリーグも以前は王子製紙や日本製紙の工場が神戸にあり、1,500人以上の観客が入っていた。今のアジアリーグはホーム&アウェイで、他のリンクで試合を開催すると、経費を自分たちのクラブで全てもたないといけなくなるので、そのあたりが辛いところと思う。

(委員)

- ・ポートアイランドスポーツセンターができてから数年後に、港島の学校を回って授業で使えないか提案を行った。その時に少しは集まったが、地元の利を活かして学校授業の一環としてスケートの授業が行えないかと思う。スキーは学校行事で行われており、そこから育つ選手もたくさんいるようである。
- ・スケート競技は特別な出会いだと思う。私たちが行く教室でも、せっかくこのようなスポーツに出会えたのだから、続けていきたいと思いますと伝えている。
- ・学校行事の中に、12~2月あたりで授業に取り入れていただけたら、そこから選手もたくさん生まれてくると思う。

(委員)

- ・障害者の方が冬季スポーツを体験できる機会がなかなかないので、障害者スポーツ協会では数年前からスケート教室を開催しているが、指導者を探している。
- ・数年前にお聞きしたときには断られたのだが、障害の有無関係なしに、教えてくれる人がいるとありがたい。募集をすると神戸市から40人ぐらいの参加がある。
- ・今は職員が手を引いて滑ることしかできていないが、職員が協力をしながらでも、講師の指導のもとで実施できるとアイススケートも広がっていくのではないかと。

(委員)

- ・事業手法については、時代とともに変遷していると思うので、周辺で主な施設の事例を紹介していただけませんか。

(事務局)

- ・公認プールのような大規模な施設の場合、BTOのPFI方式が多くなっている。最近の事例で言うと、国体施設として整備する草津市・青森県・宮崎県、栃木県、姫路市といったところでPFI方式が導入されている。
- ・施設を整備して終わりではなく、長期間事業を実施するかたちになるので、資金繰りまで含めてチェックをするということで、そういった審査に時間がかかる。また、PFIの場合は、できるだけ漏れなく施設の果たすべき役割を示した要求水準書を作成して提示する必要があるため、少し時間がかかる。
- ・グラウンドや体育館など比較的汎用性がある施設よりも、ポートアイランドスポーツセンターのような大きな施設で採用されている事例が多いように思う。

(会長)

- ・指定管理者制度では、かつての直営と比べて利用者の評価が良いと思う。コスト削減が期待されにくいというのは、管理運営費がこれまでの実績に応じて算定され、公募で管理者が選定されるというところであるが、期間が長くなってくると民間事業者の新しいノウハウを取り入れにくいという指摘がある。

(委員)

- ・吹田のガンバスタジアムは市民からのクラウドファンディングで資金を集めて、完成してから吹田市に寄附をしてガンバ大阪が経営をしている。金銭面では画期的なことではあるが、ポートアイランドスポーツセンターの場合、プロチームの施設のようにずっと管理をしていくのは難しいと思う。PFIの一番良いところは、企業のフットワークの良さを反映しやすいところである。新しくできる神戸アリーナも民活ということなので、そういったところと情報交換しながらやっていくのも一つの手法ではないかと思う。

(委員)

- ・それぞれ一長一短と思うが、利用者サービスの視点から見ると、PFIの方がうまくやっているという印象を受ける。大きな違いは資金調達であるが、今は低金利なので民間でも十分にできるのではないかと思う。法的手続き等で時間がかかるというのは、どの程度のものか。



(事務局)

- ・ ざっくりとシミュレーションをしており、P F I 方式は従来方式やD B方式と比較して数か月程度遅くなる見込みである。ただし、実際の行程の中でもう少し短縮できる可能性はある。

(会長)

- ・ 2016年にスポーツビジネスというものを成長戦略の中に掲げようということになり、前年のスポーツ市場規模が5.5兆円であったのを、3倍に伸ばすという目標が出された。それ以降、スポーツ施設でのP F Iも増えてきている。加古川市の総合体育館が2001年に導入したのが兵庫県の第一号だと思う。民設・民営でコスト削減が図られることに加え、民間ノウハウ、アイデア、イノベーションも反映されるということが評価されているところではないかと思う。